

10周年記念全国交流大会

「環境文明21のこれまでとこれから ～10年を一区切りに」

9月27日（土）午後、後樂園会館（東京都文京区）にて、全国交流大会を開催した。8回目を迎えた今回は、当会の発足から10年を迎える記念の交流大会となった。

これまでの活動の評価

平野：NPOの活動がもてはやされているにも関わらず、NPOに資金がまわってこないような今の日本の状況を変えていかなければならない。また、資金を集めるための知恵をしぼっていかなければならない。環境と文明の関係や自販機問題、倫理の問題など、現代社会のタブーに挑戦し、社会の大きな流れに警鐘を鳴らす活動をしている一方で、企業会員を増やそうとするのは大変だと思うが、これからも会員の思いを代弁して行ってほしい。ただ、このようなタブーに挑戦しているNPOは少なく、環境文明は存在するだけで意味があるので、財政的な面も含めて日本のNPOの一つのモデルになってほしい。

高橋：環境と文明というつながりや会報の内容が難しい、という意見をよく聞く。

許斐：関西グループの悩みでもあるが、会員が増えない。会員を増やすためには、幅広い人々が参加しやすいような活動もしていくべき。ただ、環境文明はみんなの行き先を示す指標なので、これまで通りまじめな活動をして行ってほしい。

松尾：日本ではNPOを使えば費用を安く抑えられるという考え方があるが、NPOが持つノウハウやアイデアに対して適正な対価を払うような社会構造になっていかなければならない。

（会場からの主な意見）

・環境問題の解決のためには、国だけでなく、地方自治体、企業、NPOなどの連携が必須であり、



そういう意味では、環境文明がやっているシンポジウムのように、様々な主体に属する人々が集える場所は非常に重要だと思う。

- ・若い人の参加が少ない。市民に根付いた活動をするためには、若い人達の積極的な参加が必要。
- ・地球・人間環境フォーラムのグローバルネットなどのように一般の人々にも読みやすい出版物に、政策提言のような活動を掲載してもらってもいいのではないか。

- ・企業の立場から見ると、NPOといえども組織体としてのマネジメント力と実際に行った活動（サービス）の市場価値がどのくらいであるかを把握していくべき。そうすれば、自分たちの活動が社会のニーズをどの程度満たしているか把握しやすい。また、事業で得た売り上げを、活動を拡大していくためにいかに使っていくのか計画を立てるべき。こういったものを会報などに載せれば社会に対するアピール度が高まり、企業や行政に対して交渉力も増す。

これから期待される活動

平野：環境と文明を考えていかなければ持続可能

な社会はあり得ないと思うので、どこかで誰かが
こういうことについて考えていってほしい。昨今、
NPOがビジネスライク化している中で、環境文明
にその役を担ってほしいが、もう少し、社会に対
して厳しい警告を発してもいいのではないかな。



許斐：日々の活動を通して、NPOを信用してもら
うことが大切。この繰り返しを通じて、会員や資
金を増やしていくことができるのではないかな。

高橋：加藤代表には、これからも難しい文章を書
き続けて、自分の哲学を作っていくってほしい。

平野：哲学は100年たっても生き続けるので、加
藤代表がいなくても、その哲学を各論レベルに落
として、代表以外のスタッフで運営・実践してい
ってほしい。ドイツのエコインスティテュートが
ワールドカップの環境対策のマネジメントを請け
負ったように、環境文明も環境対策のマネジメン
トをやっていくっていいのではないかな。

松尾：学生の政策提言コンペみたいなものを実施
すれば、学生は参加しやすく、大学にも広がるの
ではないかな。それが環境文明を知ってもらうこと
につながる。また環境教育に関する活動を進めて
いく際に、基礎科目として環境を教えるための
基本を作っていくかなければならない。

(会場からの主な意見)

・環境に関して言えば、市場価値を計ることは不
可能に近い。ただ、物さえあれば豊かであるとい
う従来型の価値観は変わりつつある。そのなかで、
会としての主張を続けていってほしい。

・若者に参加してもらうには、例えば、環境にや
さしい住宅を手作りで作り商品化していくような、
一つの目標に向かって団結しながらアウトプット
が出てくるような企画が必要なのではないかな。

・これまで情報を受けているだけの立場だったが、
各会員が得た情報をどう周りに対して展開してい
くかを考えていけば、会員はおのずと増えていく
のではないかな。

・具体的な環境システムというものを体系的に確
立していかなければならない。(成功事例を含め
て)会報にある企業の事例報告は非常に参考にな
るので、もう少し掲載する企業の幅を広げて、情
報を蓄積していってほしい。

・大学と手を組んで研究することによって、国や
行政の資金援助を受けてNPOの財政不足を補って
いけばいいのではないかな。

・調査・研究・政策提言・交流・普及啓発といっ
た個々の活動をさらに統合しながら活動してほし
い。会員の拡大に目を奪われるのではなく、いま
までどおり活動を重視して、様々な人が集えるよ
うな活動の場を提供していってほしい。

パネリスト：

許斐喜久子 (NPO法人エコパートナー21、当会
理事)、高橋房雄 ((株)高特代表取締役)、
平野喬 ((財)地球・人間環境フォーラム専務
理事)、松尾友矩 (東洋大学学長、当会理事)、
加藤三郎 (環境文明21代表理事)

コーディネーター：

藤村コノエ (環境文明21専務理事)